



笑福亭  
松  
喬



桂  
小  
枝



柳亭市馬



桂  
春  
蝶



林  
家  
小  
染



桂  
南  
光

# 上方落語五流派競演会 Vol.5

平成23年 **6月4日[土]** 14:00開演 (13:30開場)

茨木市市民総合センター・クリエイトセンター・センターホール

【全席指定】1階席3,000円／2階席2,500円

◎65歳以上、障害者及びその介助者は500円引き

◎青少年(24歳以下)は1,000円

◎茨木市観光協会、茨木市勤労者互助会、OSAKAメセナカード各会員は10%引き

\*各会員割引の取り扱いには文化振興財団のみです \*就学前のお子様のお入りはご遠慮ください

◆チケットのお申込み・お問い合わせ

(財)茨木市文化振興財団・事業係 072-625-3055 (ユアアイホール1階 9:00~17:00)

\*4月15日は電話予約のみです。チケット引取り・窓口販売は翌日から下記のチケットカウンターで  
ユアアイホール 9:00~20:00(土・日・祝は17:00まで) / クリエイトセンター 9:00~17:00

◆その他の販売所 [4月15日店頭販売有り]

ローソンチケット 0570-000-777・Lコード予約 0570-084-005 (Lコード 55962) \*ローソン各店舗で購入できます。

電子チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード 410-260) \*サンクス、サークルK、セブンイレブン各店舗で購入できます。

\*ぴあでは割引の取り扱いはありません。

◆主催:(財)茨木市文化振興財団 ◆後援:茨木商工会議所/茨木市観光協会

◆制作:三栄企画 ◆構成:相羽秋夫

「佐野山」	「粗忽の山」	「上畑の釘」	「お文さん」	「格気の独楽」	「ピーチボーイ」	「上方落語界の現状」
桂南光	桂亭馬	林家小染	笑福亭松喬	桂小春	桂小枝	相羽秋夫
* 中入り						

4月15日(金)9:00 電話予約開始

残席がある場合は翌日から窓口販売いたします

# 門下の威信をかけて激突！

「五流派競演会」が、今年も茨木の街にやって来た。大相撲はやって来なかったが、競演会は、確実にやって来た。

それは、皆さんの絶大なご支援があるからである。毎年、この会に寄せていただける熱気が、茨木の風物詩に成長したのである。

プランナーとしてこんなうれしいことはない。まずもって心より御礼申し上げます。

初めての方のために、この会の特徴をご説明すると、現在上方落語界は大きく分けて五つの門下で構成されている。その五流派から一人ずつの代表を選出して、お互いの門下の力量を競おうというものである。

このような会が、この規模で行われることは、非常に珍らしい。すでに今回で五回を数え、毎年チケットは完売する。どうか早い目にご手配をお願いしたい。

それでは、五流派の強者を出演順にご紹介しよう。



まず「春団治一門」から三代目桂春蝶が出演する。

春蝶は、熱狂的なタイガースファンとしてマスコミで人気があった先代の実子である。父の通夜の席で、父の師匠である春団治に入門を請うて、父と同じ道を歩むことを決意した。

春団治直系の最後の弟子として修業を始め、最初付いた名前が春菜。蝶は菜の花が好きというところから春団治が選んだ粋な芸名であった。

一昨年待望の父の名跡を継ぎはり切っている。私が見る限り、襲名後一皮むけたように腕を上げた。古典の改作「ピーチボーイ」に期待がかかる。

二番手の桂小枝は、「文枝一門」を代表する。

ユニークな芸風で、マスコミへの露出も多い。創作落語の特異な演出で世間の注視を集めた。

個性派の多い文枝一門だが、その中であって門下をまとめる手腕も評価されている。

一方で、最近本業である落語に再び力を入れ始め、数々の会に意欲的に出演している。

また若手育成のための賞を創設して後進の道を開いている。

この二月に実父を失い、失意の中にあるが、それを乗り越え、女性のジェラシーを巧みに描く「悟気の独楽」という難しい噺に挑戦する。

中入りのトリは、「松鶴一門」の六代目笑福亭松喬である。松喬は、文化庁芸術祭賞をはじめとする数々の賞に輝く、まさに一門のエースである。



相羽秋夫 (演芸評論家、大阪芸術大学教授)

理容の世界で成功させたいと夢見ていたが、いつの間にか松鶴の芸に魅せられて、鶴三の名前でデビューした。

松喬の名前は、松鶴が遺言で名ざしにしたものであり、当代で六代目という、ずしりと重い名跡である。

本格的な話芸は安定感があり、聴く人を安心させる。土の香りを伝える噺家として定評があり、「お文さん」という宗教心をテーマにした古典を、じっくりと語ってくれよう。楽しみにしていて欲しい。

休憩をはさんで「林家一門」の五代目林家小染が登場する。

交通事故で天逝した先代の唯一の弟子である。師の死後、現染丸の門下で修行を積んだが、今は独立した。

夫人が囃し方で、三味線を担当しており、その夫人の妹が桂あやめという芸能一家だ。

豪快な呑みっぷりで有名だった先代だが、当代も酒好きであり、師匠の得意芸を数多く引き継いでいる。

今宵披露する「上爛屋」も、先代ゆずりの一席で、もともと「首堤灯」という噺の前半部分で、酒呑みの生態が生き生きと描かれている。小染落語がもっともよく表出されている。

大トリは、「米朝一門」の三代目桂南光がつとめる。

故二代目枝雀の門下で、ざこばと並んで一門の精神的支柱として、高座にマスコミにがんばっている。

前名をべかこと言ったが、出身地の千早赤坂村出身の英雄楠正成の楠公にひっかけて南光を襲名した。

間違いない、これからの上方落語界を背負っていく存在である。今宵の「佐野山」は、最もタイムリーなテーマで、それは聴いてのお楽しみ。東京の噺だったが、一九八二年にべかこがはじめて大阪で演じた。上方本家の「佐野山」を味わって欲しい。

今回は、この五人に加えて東京から四代目柳亭市馬がゲスト出演する。

今、東で最も注目されている真打ちである。

一九六一年、大分県の生まれ。八十年に故六代目柳家小さんに入門して小幸。さん好の名で二ツ目になり、九三年に異例の抜擢で真打ちとなり四代目市馬を襲名した。

明かるい高座で、三波春夫の声帯模写でも有名だ。上方では「宿替え」というタイトルで演じられる「粗忽の釘」を披露してくれる。

と、第五回の競演会も充実そのものの顔ぶれである。胸ときめかせ

て待っていて欲しい。  
〈敬称略〉

## ◆チケットのお申込み・お問合せ

(財)茨木市文化振興財団 072-625-3055 (茨木市市民会館1階 9:00~17:00)

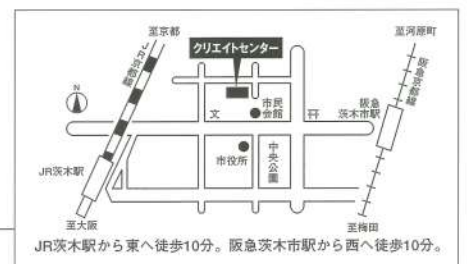
\*財団の発売初日は電話予約のみです。座席はお選びいただけませんので予めご了承ください。

\*予約後は、1週間以内に市民会館またはクリエイトセンターチケットカウンターでご精算ください。

\*予約チケットの郵送をご希望の場合は、(チケット料+郵送料400円)を郵便局備え付けの

「払込取扱票」でお支払いください。手数料はご負担願います。払込確認後の発送となります。

〈払込口座〉00970-7-190576 / 加入者名:財団法人茨木市文化振興財団



◆クリエイトセンター (茨木市市民総合センター) 茨木市駅前四丁目6番16号 / 072-624-1726